氏　　名	折原茂樹（おり はら しげ き）
学位の種類	博　士（医学）
学位記番号	医　第　909　号
学位授与の日付	平成 18 年 9 月 15 日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文題目	大学生の健康生活習慣知識・健康意識に対する態度変化の研究
論文審査委員	（主　査）　教授　伊木雅之
	（副主査）　教授　人見一彦
	（副主査）　教授　東田有智

論文内容の要旨

【目的】

生活習慣病対策としては長期にわたる生活習慣の変更が必要であり，健康教育の重要性が指摘されている．本研究は，短時間（30分，1回）の「健康に関する講義」による対象者の健康知識・健康意識の変化をみる．

【方法】

大学生を対象者として，生活習慣病や望ましい生活習慣などに関する30分の講義を行い，その前後に「健康生活習慣知識」質問紙，「健康意識調査」質問紙を実施してその変化をみた．それらの質問紙に加えて，講義前には「生活習慣調査」「疾病経験·相談者調査」，講義後には「講義印象調査」の各質問紙を実施した．また，コントロール群として，別の被験者群に対して，講義を入れずに30分の間を空けて「健康生活習慣知識」質問紙，「健康意識調査」質問紙を2度実施した．さらに6ヵ月後の変化をみた．

【結果】

①「健康生活習慣知識」質問紙より「生活習慣病知識因子」，「健康生活習慣知識因子」を抽出した．「健康意識調査」質問紙より「健康将来展望因子」，「健康楽観因子」，「生活習慣不安因子」，「健康情報希求因子」を抽出した．「生活習慣調査」質問紙より「規則的生活リズム因子」，「生活習慣妨害因子」，「健康生活習慣因子」を抽出した．「疾病経験·相談者調査」質問紙より「健康サポータ因子」，「疾病経歴因子」を抽出した．「講義印象調査」質問紙より「実行可能因子」，「講義理解因子」を抽出した．②コントロール群に変化なく，実験群で変化が認められた因子は，「生活習慣病知識因子」「健康生活習慣知識因子」「健康将来展望因子」であり，この3因子の講義による変化が明確に認められた．③「生活習慣病知識因子」と「健康生活習慣知識因子」とは，そして「生活習慣不安因子」と「健康将来展望」とは相互に講義による変化に影響している．「規則的生活リズム因子」，「生活習慣妨害因子」，「健康生活習慣因子」，「健康サポータ因子」，「疾病経歴因子」，「実行可能因子」，「講義理解因子」は講義による変化に関係していないことを認めた．④6ヵ月間に変化した因子は「生活習慣病知識因子」のみであった．

【考察】

①抽出した因子は，作成意図に合致している．②講義による健康知識の変化は講義による健康意識の変化よりも大きい．③講義による変化に関与する因子と関与しない因子が認められたが，条件を変えた追試等の必要性と共にその因果追求が必要である．④6ヶ月後にも1因子には残存効果が認められた．

【結論】

①健康生活習慣知識や健康意識には，コントロール群に比べて実験群では，短い時間の一回の講義でも変化の生じる因子と変化の生じない因子があること，②健康生活習慣知識や健康意識の講義による変化に関係する因子と関係しない因子があった．

博士論文の印刷公表	公表年月日	出版物の種類及び名称
	平成18年　月　日　公表予定	出版物名 近畿大学医学雑誌 第31巻　第1号 平成18年　月　日　発行予定
	公表内容	
	全文	

論文審査結果の要旨

疾病構造の変化の中で生活習慣の影響の比重が大幅に増し、生活習慣病対策が求められており、その結果、健康教育の重要性が指摘されている。比較的長期にわたって健康教育を行うことが望ましいことであろうが、現実には市町村主催の健康に関する講演会など、短期間の一回限りの健康に関する講義が多い。比較的長期にわたる健康教育の効果に関する研究は数多くなされているが、この短時間の一回限りの健康に関する講義の効果をみた研究は見当たらない。本論文は、コントロール群の設けた上で、短時間の一回限りの健康に関する講義による知識、意識、態度の変化を質問紙法により検討した研究である。

本論文は、医学系ではない大学生419人を介入群として、生活習慣病、望ましい生活習慣などに関する30分の講義を行い、その前後、並びに419人の内、136人については6ヶ月後にも「健康生活習慣知識」「健康意識」質問紙調査を実施してその変化をみたものである。それらの質問紙に加えて、講義前には「生活習慣調査」「疾病経験・相談者調査」、講義後には「講義印象調査」を実施した。また、コントロール群として、同大学の別の大学生271人に対して、講義を入れずに30分の時間を空けて「健康生活習慣知識」「健康意識調査」を実施し、その変化を見た。

その結果、①「健康生活習慣知識」と「健康意識調査」より、「生活習慣病知識因子」,「健康生活習慣知識因子」,「健康将来展望因子」,「健康楽観因子」,「生活習慣不安因子」,「健康情報希求因子」を抽出した。「生活習慣調査」より「規則的生活リズム因子」,「生活習慣妨害因子」,「健康生活習慣因子」を抽出した。「疾病経験・相談者調査」より「健康サポータ因子」,「疾病経歴因子」を抽出した。「講義印象調査」より「実行可能因子」,「講義理解因子」を抽出した。②コント

ロール群に変化なく、介入群で講義によって因子得点に変化が認められた因子は、「生活習慣病知識因子」,「健康生活習慣知識因子」,「健康将来展望因子」であった。③6ヶ月後には「生活習慣病知識因子」に良好な変化が見られたが、他の因子の変化は見られなかった。④「生活習慣病知識因子」と「健康生活習慣知識因子」そして「生活習慣不安因子」と「健康将来展望因子」は講義による得点の変化に相互に影響していた。このような影響は、「規則的生活リズム因子」,「生活習慣妨害因子」,「健康生活習慣因子」「健康サポータ因子」,「疾病経歴因子」,「実行可能因子」,「講義理解因子」には見られなかった。

以上の結果から、①健康生活習慣知識や健康意識には短い時間の一回の講義でも変化の生じる因子があること、②健康生活習慣知識や健康意識の講義による変化に影響する因子があることが認められた。

本論文の結果から、市町村などで実施されている短時間の一回限りの健康に関する講義でも知識を増す効果はあり、その効果に影響する因子があることが示された。本研究は短時間の講義をより効果的なものにするための基礎研究となり、医学博士の学位を授与するに値すると認められる。

氏　　名	鄭（てい）　浩柄（ひろし）
学位の種類	博　士（医学）
学位記番号	医　第　910　号
学位授与の日付	平成 18 年 9 月 15 日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文題目	A proposal of modified liver damage classification for hepatocellular carcinoma （日本肝癌研究会　肝障害度のスコア化による新分類法の提唱）
論文審査委員	（主　査）　教授　工　藤　正　俊
	（副主査）　教授　伊　藤　浩　行
	（副主査）　教授　大　柳　治　正